

KOBELCO

金属 / 建物解体 / 産廃 / 林業 》現場を支えるコベルコ機

コベルコ建設
機械 ニュース別冊

環境建機レポート

Vol.18
建物解体編



次世代アタッチメント&チルトキャブ搭載の
SK400DLC-10 NEXTが
建物解体現場の課題を解決!

①解体対象は高さ約12mの3階建てマンション。SK400DLC-10 NEXTは、インサート抜き
の超ロングアタッチメントで作業を行っていた ②解体現場では、SK400DLC-10 NEXTの
ほかにもコベルコ機が稼働中。SK235SRDはコンクリートからの小割作業、SK135SRDは
廃材の積込作業に従事していた ③部長の小坂政則さん。オペレータの杉村彰さんとど
もに、20年以上にわたってミツワ開発の発展を支えてきた ④杉村さんは、土木業界での経
験も合わせると重機オペレータ歴35年。解体機に関して国内にあるほとんどのメーカ
の機種に乗ったことがあるという。「コベルコ機は常に進化し続けている点が素晴らしいと思いま
す」 ⑤今回の案件は、SK400DLC-10 NEXTにとって超ロングアタッチメントを装着して
の初めての解体現場だ。機体の安定感に加えて、パワーも十分なことが証明された ⑥搬
送時はクローラ部を本体内に収納可能で、機体幅を規制内の3m以内に抑えられる。NEXT
超ロングアタッチメントも、搬送時の高さを約2mに抑え、高い輸送性を実現している ⑦オペ
レータがより快適に作業できるよう、ヘッドレストは角度調整が可能だ ⑧SK400DLC-10
NEXTとともに稼働中のSK235SRD、SK135SRDはiNDR搭載機。粉塵などのダスト除去
に活躍する専用フィルタは、工具なしで簡単に取り外せて、丸洗いもOK



⑥



⑦



⑧



⑤



①



③



④



②

課題

県の運搬取り締まりの強化により
解体機の搬送が困難に

対策

SK400DLC-10 NEXT を導入

結果

解体機の運搬が可能になり、
生産効率や快適性もアップ

メインブーム兼用型建物解体機の導入で 厳格化する搬送規制に完全対応

石川県全域で木造家屋やRC造、S造などの建物解体を手がける有限会社ミツワ開発。近年、作業に欠かせない解体機の搬送規制が厳格化していることを受け、同社ではコベルコ建機のSK400DLC-10 NEXTを導入した。その結果、搬送はもとより、NEXTアタッチメントによる組立・分解作業の大幅な時短など、現場では大きな成果を上げているという。



代表取締役
笹木幸博さん

有限会社ミツワ開発は1999年に創業。建造物の解体工事を皮切りに、現在は建設廃材などを再利用した木質チップやRPFの製造など、産業廃棄物のリサイクル業にも取り組んでいる。

「解体工事の対象は木造家屋がメインですが、最近では3〜5階程度の高さの建造物解体も増えています」と話すのは、創業者である代表取締役の笹木幸博さん。そんな同社の建物解体の現場で活躍しているのが、2018年12月に導入されたコベルコ建機の解体機、SK400DLC-10 NEXTだ。同社では、このクラスの解体機は長らく他メーカのものを使用していた。コベルコ機への入れ替えを決めた背景には何があったのか。その理由を、笹木さんはこう語る。

「近年、重機の搬送に関わる法規制が厳しくなっており、もともと所有していた解体機の現場への搬送を、機体の幅が大き過ぎるとい理由で運送会社に断られてしまったのです。このままでは仕事にならないと困っていたところ、コベルコの40tクラスならクローラ部を本体に収納して輸送時の（幅を3m以内に抑えられるということを知って、即座に導入を決めました」

搬送への対応のみならず 作業効率の向上にも貢献

搬送時の課題解決から導入されたSK400DLC-10 NEXTだが、現場での使い勝手に対する評判も上々だ。部長を務める小坂政則さんは、アタッチメントの組立・分解作業時間を大幅に短縮できたうえ、作業にかかるコスト削減も可能になったことを高く評価している。

「これまでなら、アタッチメントを交換するのに1日かかり。それが、NEXTアタッチメントなら半日もかからずに交換でき、その分を解体作業の時間に充てられるため、会社としての生産効率の向上に大きく貢献しています」

一方、実際の解体現場で同機に搭乗しているオペレータの杉村彰さんは、その操作性を評価する。「コンパクトながら旋回時に機体が振られることがなく、安定感が抜群ですね。ニブラをピンポイントで思うように操作できるため、作業の安全性は格段に高まったと思います」

取材時、SK400DLC-10 NEXTは3階建てマンションの解体で稼働中。現場を訪ねると、そのキャブは上方へと傾いて

いた。「オプションのチルトキャブを採用しました。解体作業時のオペレータは、常に首を上方に曲げて操作しなければならず、業務終了後は首も肩も凝り固まってしまう。その点、チルトキャブの本機はとも楽ですね。操作レバーも一緒に傾くので、作業に支障もありません。1年半ほど前に4階建て物件の解体をしたのですが、その際にこの機械があればどんなに快適だったかと思わずにいられます」（杉村さん）

現場の課題を解決する コベルコの開発力に期待

現在、ミツワ開発では計24台の解体機を所有。創業時より他メーカ中心のラインアップだったが、近年はコベルコ機が台数を増やし、今や半数以上を占めている。そのきっかけとなったのが、13tや7tクラスにおけるiNDR搭載機が存在だ。「建造物の解体中は大量の粉塵が発生するため、以前は屋外といえども解体機のオーバーヒートが頻繁に起こっていました。その課題を解決してくれたのが、コベルコのiNDR搭載機でした。機体の水温メーターが上がった際には、フィルタを取り外していただくだけで、そんな簡単なメンテナンスで、それまで頻発していたオーバーヒートが皆無になったのは驚きましたね」（笹木さん）

石川県には、高度経済成長期に建てられた多数の建造物が存在するため、今後の解体需要は堅調だ。しかし、これからは狭小地での作業など難しい現場が増えていくと予想されている。「SK400DLC-10 NEXTやiNDRなど、現場の課題解決に貢献する解体機を開発し続けているコベルコには期待しています」と笹木さん。その言葉には、ミツワ開発におけるコベルコへの大いなる信頼が感じられた。



有限会社ミツワ開発
●所在地：(加賀本社)
石川県加賀市打越町15-4
●TEL：0761-74-7679
●創業：1991年
●事業内容：各種建造物解体工事、
産業廃棄物処分業
●従業員：25名

こちらのQRコードから
動画をご覧いただけます

